

2020年8月31日

市川市長 村越祐民様

緑のみずがき隊 隊長 谷藤 博喜

## 「北方生きもの子どもミニ自然園」の保全を求める再度の要望書

私達は、市川の自然と文化に関心を持ち、これら貴重な財産を次世代に引き継いでいくまちづくりを行政の方々と協働して進めたいと活動しております。私達は、このような観点から、2006年2月に「大柏川流域の水と緑の回廊構想」と「北方生きもの子どもミニ自然園の保全を求める要望書」（以下、北方ミニ自然園と略します）を提出しました。2008年4月、2009年1月、2010年7月に市川市政策提案制度で同回廊計画の具体策を提案し、採択の決定をいただきました。また、2014年10月に市川市北東部スポーツタウン基本構想案に意見を提出しました。

この間、北方ミニ自然園の保全対策について市川市の関係部署と意見交換を行いました。市の担当からは「市内には自然環境を保全すべき場所が多数あり、優先順位を付けて対応している。土地の相続など保全に急を要する事態が生じたら相談してもらいたい」とのお返事でした。

このたび、地権者の相続などにより北方ミニ自然園の存続が危ぶまれる事態となり、保全を至急、貴職にお願いしたく、再び要望書を提出いたします。

### 1. 北方ミニ自然園保全の要望事項

- ① 市川東北部に残された伝統的な水田環境の自然と文化に鑑み、公有地化を含めて保全対策を至急に取ってください。
- ② 大柏川第一調節池緑地との連携に鑑み、一体的に利活用できるように配慮してください。
- ③ 地域の連携に鑑み、上記①、②をすすめるにあたっては、関係各所と協議の上、早急に対処をお願いします。

### 2. 北方ミニ自然園の紹介と経過

ご存知の通り、真間川の桜並木を守る市民の会などが要望する中で1994年に千葉県と市川市は大柏第一調整池（以下、北方遊水池と呼びます）の全面を良好な自然環境に配慮して整備・利用することを英断されました。それを受けて1995年から市川緑の市民フォーラムは県の理解を得て予定地内で実験池を作り始め、1998年に市の仲介で北方遊水池に隣接地へ移転、この地を「北方生きもの子どもミニ自然園」と命名するとともに運営管理をするボランティアグループ・緑のみずがき隊が発足しました。

北方ミニ自然園は面積1500㎡余り、北方町4丁目地先で市民プールと北方遊水池に挟まれています。当初はアシの茂る休耕田でしたが、湧水を活かしてトンボ池、ホタル水路、教育水田などかつて市川北部に広がっていた自然環境が復元され、今日では子どもたちを始めとする多くの方々が直接自然と触れ合える稀有な場所となっています。

市民参加のワークショップを経て北方遊水池の整備は進み、2006年春には県から市に維持管理が移管、その後2007年6月開園式を経て市民に開放されました。北方ミニ自然園は地権者の厚意で格安の賃貸で、緑のみずがき隊により維持管理され、現在に至っています。

### 3. 北方ミニ自然園の重要性

#### （1）原風景としての価値

1960年代まで市川北東部はアシ原と田畑が一面に広がっていました。その中で、子ども

たちは、農作業を手伝いながら自然とのびのびと触れ合いながら遊び、生命の尊さや優しさ、美しさを会得してきました。北方ミニ自然園はそんな時代の面影を残す希少な場所で、今の子どもたちにも大人たちにも接してほしい里山景観です。2014年11月に北方ミニ自然園における緑のみずがき隊の活動は、市川市景観賞をいただいています。

## （２）市川東北部に残された伝統的な水田環境のビオトープとしての価値

北方ミニ自然園は休耕田を復元したビオトープで、カエル、チョウトンボ、モクズガニ、ウキゴリ、ドジョウ、イナゴなど様々な里山の野生生物が生息しています。面積が小さいとは言え北方遊水池とともに市川東北部の水と緑の回廊の起点となり、さらに治水の視点からも大切な機能を持つ緑地で、市川市が優先的に確保すべき貴重な緑地と考えます。

## （３）市川東北部に残された伝統的な水田環境の文化財としての価値

稲作は日本の大切な文化ですが、市川の水田は次々に失われ、北方ミニ自然園や小川再生親子ふれあい農園などに僅か残るだけです。特に北方ミニ自然園の教育水田は、地元で「どぶっ田」と呼ばれる昔ながらの湿田で、生産効率から圃場整備事業でほとんどが乾田となった今日、貴重な文化財と言えるのではないのでしょうか。北方は、伝承民話じゅえむの地であり、伝統文化の原風景として残すべきものと考えます。

## （４）地元住民・農家や市民ボランティアと連携して近隣小学校が利用する教育的価値

北方ミニ自然園では、地権者や地元農家の方々の理解・協力を得てボランティアにより開設当初から環境教育プログラムが実施され、市川市と同教育委員会の後援をいただいています。また、近隣小学校が理科の自然観察や総合学習の稲作などを実践し、地域に密着した体験学習の場となっています（詳しくは別添の「みずがき隊報告書」をご覧ください）。20年余にわたる地域連携はかけがえのない財産です。地域に根付いた活動が評価され、2016年6月に市川市の推薦で緑のみずがき隊は千葉県環境功労者知事感謝状をいただきました。

## （５）北方遊水池の自然環境復元の原点としての価値

北方遊水池の自然は、掘削工事により一旦破壊され、その後に復元されてきました。自然環境復元には地域本来の動植物を供給する源が必要ではないのでしょうか。ヤナギ類やニホンアカガエルは、北方ミニ自然園から北方遊水池へ進出しました。千葉県が最重要保護生物(A)に指定するニホンアカガエルの産卵は、この2年ほど北方遊水池では確認されず、ミニ自然園のみで繁殖しています。北方ミニ自然園には、環境省が絶滅危惧II類(VU)に指定するデンジソウが繁茂し、大賀ハスも復活しています。復元の原点として現況保存が優先課題であり、掘削以前の土を持つ北方ミニ自然園は確保すべき貴重な緑地と考えます。

## （６）北方遊水池・スポーツ公園と一体的に市民が利活用する価値

北方ミニ自然園は、市民プール（将来計画ではアリーナ）と北方遊水池の間の三角地で、これらと一緒に総合的な公園として利活用を図るべきではないのでしょうか。北方ミニ自然園は、北方遊水池の増水時にも浸水しませんので、稲作体験の区域として利用価値は大きく、環境教育、生物観察など多面的に活用できるのではないのでしょうか。北方ミニ自然園を積極的に保全して北方遊水池の市民の利用を補完し、スポーツ公園と連携し総合的な公園として利活用すべきものと考えます。

以上の通り、市川の自然と文化を貴重な財産として次世代に引き継ぐため、ご高配くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

連絡先：緑のみずがき隊 市川市柏井町4-329-5 隊長 谷藤博喜